

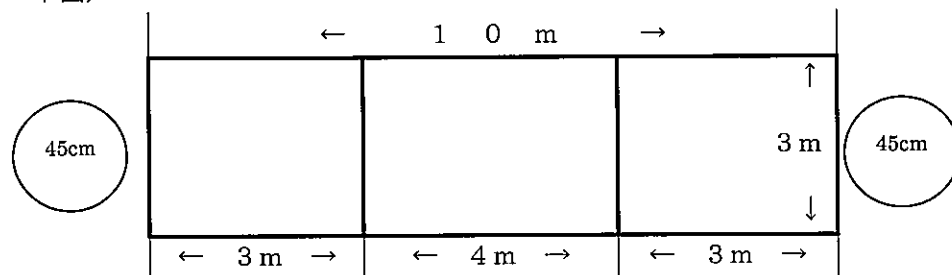
フローリングルール

広尾町スポーツ推進指導員協議会

平成3年7月1日制定

- 1 競技者はチーム5名とし、5個のホースリング（以下「リング」という。）を使用し、ゲームを進める。
選手の登録は7名まで可能で、送球順は自由である。
- 2 コートは10m×3mのテープでフローアに設置され、送球地は短辺の中央外側に直径約45cmのサークルが置かれ、そのサークルの中に立ち、標的、リングも送球される。
- 3 標的（卓球の変形したものにビニールテープを巻いたもの）はコート内3m～10m以内に送球位置から投げる。標的は2回まで投げなおすことができる。2回とも失敗したときは先攻権が移動する。
- 4 標的及びリングは、送球位置からどのような体勢で送球してもよい。投げたリングは、移動されてもゲーム終了まで、そのままの状態で置く。リングは一人1投とする。
- 5 リングの形・重さ等による不公平を防ぐため、セット毎に色分けしたリングを交換する。
即ち、赤白の場合、1セット目に赤を使用したチームは2セット目は白を使用する。1セットずつリングの交換をしてゲームを進めてゆく。
- 6 標的にリングを最も近付けたチームは相手方がさらに近付けるか、リングを使い終わるまで送球しない。
また、標的をリングで捕えた場合（囲んだ場合）、リングを標的から外し、投球者の好きな位置に置くことができる。（ただし、標的に付けて置くことができる。）
- 7 双方のリングが標的に対して同等距離になった場合は、あとに近付けたチームがさらに送球することとする。また、セット終了後同等の距離の場合は、それぞれのチームに各1点を与える。
- 8 ゲーム中、標的をコート外に弾き飛ばした場合、そのセットは終了し、相手チームに2点または相手チームの残っているリングの数、いずれか多い方を得点として与える。
リング、標的がオンラインの時はセーフとする。
- 9 得点の計算は、両チームのリングを全て送球し終わった後、標的に最も近いリングのチームが相手チームの標的に一番近いものより近いもの全てが得点となる。
（1個につき、1得点とする。）
- 10 セットに勝ったチームは引き続き先攻権を得て、ゲームを続ける。（コートは左右にセットごとに移動すること。）
- 11 10点先取したチームを勝ちとし、ゲームを終了する。（終了得点は、ゲームに応じて変えてもよい。）
- 12 コートは下記のように設計する。

（コート図）



フローリングゲーム

- 1 用 具 ①ホースを丸めたリング（輪）：1チーム 5個
 ②サークル（直径45cm）：送球位置に置く。
 ③標的（卓球の変形ボールをビニールテープで巻く。）
- 2 ゲーム内容 ①このゲームはフローリングに投げた標的を目標に、各チーム5個、合計で10個のリングを投げて、近付けることで得点を争います。
 ②それぞれのチームが5個のリングを投げ終わったとき、1セットが終了する。

（得点計算の例）

（例） 第1セット		○チームは◎チームよりも標的●に近く1個を確保したので、○チームに1点が与えられます。
（例） 第2セット		◎チームは○チームよりも標的●に近く3個を確保したので、◎チームに3点が与えられます。
（例） 第3セット		○チームは◎チームよりも標的●に近い4個を確保したので、○チームに4点が与えられます。

※3セット終了までの得点は5対3で○チームが勝っていることになります。セットを何回も繰り返し、10点を先取したチームが勝ちとなります。

- 3 投球順番 まず、先攻を決めて、標的を3m～10m以内に、自分の得意な距離投げる権利を得る。
- 同位置に送球地サークルを置き、最初のリングを送球する。次に後攻のチームのリングよりさらに近づくまで送球し続ける。
- 後攻のチームのリングが先攻チームのものよりも標的に近づけたら先攻のチームがかわって送球する。
- このように標的に一番近づいたチームは、相手がさらに近づけるまで、またはリングを使い終わるまで待つて、次のリングを送球します。